

揺るぎなき挑戦!!

衆議院議員

# 木原せいじ

国会活動報告書

せいじ便り 17号



## 今後の社会保障制度を考える

5つの提言

前号及び緊急号外では景気を取り上げました。今号は、社会保障制度について。衆議院厚生労働委員会委員として、今後の社会保障の充実に向け、五つの視点から取り組んでいます。

### 五つの視点

- 社会保障の充実こそ、経済に大切  
：不安の解消を
- 個人重視の社会保障制度の確立を  
：社会保障カード導入
- 現場重視で現場の疲弊を脱却
- 世代を超えて連帯できる安定財源の確立を
- 税金の無駄撲滅が全ての前提

### 基本的発想の転換を

厳しい景気状況の中で、短期的な景気・市場対策が求められています。同時に、日本経済の中長期的成長にとっては、**将来不安を除去**して内需拡大を図ることが重要です。例えば年金。国民の皆様のご協力とマンパワーを総動員した年金記録の集中点検、未納期間へのきめ細やかな対応、何よりも**物価スライドの復活**。そして介護では、介護施設、介護人材の確保。**社会保障の充実**こそ景気に大きな影響を与えます。道路特定財源の一般財源化の中で手当てすることも含めて検討し、社会保障費にかかる2200億円のシーリングを撤廃

する必要があります。

## 「個人」を大切に社会保障制度へ

特に年金

社会保障は、「皆で支えあう」仕組みですが、その基本には「個人」がなければなりません。ところが、「個人」が埋没してしまっています。これまでの日本の社会保障制度が、**企業・事業所管理**のシステムで運営されてきたからです。実は、税金も同様です。保険料も所得税も、自営業者以外の方々は、企業・事業所によって天引きされます。年金保険料の支払い記録は、社会保障庁の管理の前段階として、企業が管理してきました。こうした仕組みは、戦費調達を優先した**戦時体制**のなごりです。

人生60年の時代には、企業・事業所による管理も可能だったかもしれませんが。しかし、今や人生80、90年の時代。他方で企業・事業所の平均寿命は35年といわれており、企業・事業所がなくなってしまうたら管理するところもなくなってしまう。

そこで、3年後には、皆さんのお手元に**個人単位の社会保障カード**が届きます。これには年金の個人勘定が記録され、掛け金の額も将来給付の額も個人単位で分かるようになります。健康保険との一体化も可能となり、「年金をもっとほしい」方には、「その代わり医療の自己負担は増やしてください」といえるようになります。社会保障カードの**円滑な導入**に努めていきます。

現場を重視する社会保障制度へ  
特に医療・介護

日本の社会保障は、現場の方々の高いモラルとやる気に支えられてきました。要介護者や患者さんにできる限り良いサービスを提供しながら、負担は可能な限り低くしようとするならば、しわ寄せは、お医者さんや看護師さん、ケアワーカーやホームヘルパーさんなど、に向かいます。裏を返すと、比較的低い賃金で過酷な労働を強いても、高い使命感とモラルで大丈夫だという「ガンバリズム」に期待してきたともいえます。しかし、既に現場は疲弊しきっています。

私は、同じ過程を4年間の英国在任中に目の当たりにしました。医療の現場が疲弊して、病院が突如閉鎖され、関係者のモラルも低下して医療事故などが増える。英国大蔵省で私とともに仕事をしたブラウン大蔵大臣（現首相）は、こうした状況を目の当たりにして、医療への公的支出を倍増する決断をしました。

我が国も、勤務医、看護師、介護従事者などの給与引上げにつながる形で緊急に診療報酬、介護報酬の引き上げを行う必要があります。また、中期的には、臨床研修制度の見直しや大学定員の増加などを通じて、医師不足を解消することも重要です。

安定した財源を得ること

若手世代と高齢盛大の連帯を

本格的な高齢社会を迎え、社会保障給付は

94兆円（2007年）になっています。今後増加することとはあっても減少することはありません。この給付費は、皆様から頂く保険料、税金、自己負担によって賄われています。お互いに支えあう「共助」、社会で支える「公助」、個人ががんばる「自助」、バランスをどのように取るのか、財源論の本質です。

そこで、医療を例にとると、自己負担は既に3割と、限界に近づいています。また、年金では、保険料の段階的引き上げが既に決定されており、更なる引き上げは、若手世代に大きな負担を強いることになり、困難です。結局、社会保障全体として、安定的な財源を得るため「公助」の部分を広げていく以外にありません。2〜3年ほど景気回復に全力をあげ、景気回復したのち、「薄く広く皆で支え合う」の考えのもと、抜本的税制改正に取り組んでいきます。

現場を重視する社会保障制度へ

ただし、その前提は徹底した無駄撲滅です。無駄遣い撲滅チームの事務局長補佐、道路関連法人改革チームの主査として無駄撲滅に携わってきましたが、今後とも、徹底して取り組みます。とりわけ、「やみ専従」などの犯罪行為には厳格に、マッサージチェア購入など明白な無駄遣いは、直ちに停止します。その上で、三大改革。第一に、公益法人改革。税金からの支出がほとんどで、役員の大半も天下りの法人などは、原則廃止に。第二に、財務省改編・予算制度改革。財務省主計局を予算査定局と予算監査局に分割して、事後チェックを徹底するほか、複数年度予算を導入し、2、3年目に監査を集中的に行うサイクルにあらためます。第三に、国会議員定数の大幅削減、議員世襲について同一選挙区からの立候補制限などに取り組みます。

木原せいじ事務所

■国会事務所 〒100-8982  
東京都千代田区永田町2-1-2  
衆議員第2議員会館606号室  
TEL: 03-3508-7606  
FAX: 03-3508-3986

■地元事務所 〒189-0013  
東京都東村山市栄町2-22-13  
松岡ビル2階  
TEL: 042-392-4105  
FAX: 042-392-4106



木原せいじ公式  
モバイルサイト  
http://kiharaseiji.com/k/  
携帯電話から木原せいじモバイルにつながります。

ボランティアを募集しています!

事務所内における事務、ポスター貼り、各種広報物の配布などお手伝いいただけるボランティアを募集しています。どんな事からでもかまいません。政治に興味があって、木原誠二の政治活動を手伝ってみたいと思われる方は是非ご連絡ください。



国会見学に行きませんか?!

木原せいじ事務所では、随時、国会見学を受け付けています。友達や仲間とお誘い合わせの上、是非ご来館ください。少人数からでもお気軽にご相談いただければ結構です。テレビで報道される国政の生の現場をご案内します。



木原せいじ  
プロフィール

- ・私立武蔵中学・高校、東京大学法学部卒業
- ・大学時代はテニスで全国選抜3位
- ・平成5年大蔵省（現財務省）入省、主計局、大臣官房、国際局課長補佐、税務署長歴任
- ・その間、英国大蔵省出向（初代）
- ・平成17年9月 衆議院選挙当選
- ・現在、厚生労働委員会、内閣委員会、拉致特別委員会、各委員。党では、国際局次長、青年局次長、女性局次長、学生部参与。
- ・趣味はテニス・ピアノ・散歩。座右の銘「至誠通天」。
- ・著書「英国大蔵省から見た日本」（文春新書）

